

めぐろカンタービレ!!

～パーシモンホールで活躍! 知る人ぞ知る目黒区民交響楽団～



▲コントラバスは、バイオリンが大きいくなったような楽器です。弾き方は異なりますが、バイオリンのように弓を使って演奏します。



▲意外と種類の少ない金管パート。今回の練習に来ていたのは、トロンボーン、トランペット、ホルンだけでしたが、他にもユーフォニウムやチューバなどがあるそうです。



練習会場には、弦楽器から管楽器までさまざまな楽器の音色が響いていました。



12月11日にコンサートを控えた、目黒区民交響楽団の取材に行ってきました。私たちが取材に行った日の練習曲は、チューバやユーフォニウムなどが少なく、バイオリンやコントラバスなどの弦楽器が多い曲でした。私たちは、楽団員のみなさんの後ろに座らせてもらい、練習風景を見学させていただきました。

コンサートマスターが立ち上がったのを合図に、すぐにチューニングが始まり、練習に移りました。

練習とはいえ、素人の耳にはすでにほぼ完成しているのではないかと思うほどでしたが、皆さんはまだ納得のいかないうちでした。

指揮者の平井さんが口ずさんだり、動いたりしながら告げるアドバイスを基にどんどんメロディーが生み出されていきます。

今回苦戦している様子だったのは金管パート。重いうえに音程を正確にとるのが難しいため、普段の練習に加えて体力をつけることも重要だそうです。

また、見学席の近くにいたコントラバスは、低音楽器の



指揮: 平井秀明さん

指揮者からのアドバイス
「生演奏だと緊張してしまうから、練習時から落ち着いて演奏することを意識してください」

▲全ての楽器の音を束ねる指揮者。一つひとつの楽器の音を、よく聴きながら、各パートのミスを指摘するとても大事な役割を担っています。



練習ということもあって、足りない楽器もありましたが、十代にとっては聞きなれないクラシック音楽を聞くことができました。また団員の方々も親切に楽器のことや曲のことを教えてくださったので、非常に充実した時間を過ごすことができました。

編集員の秘取材メモ



特別公開!

▲すてきな後ろ姿でした!

せっかくの練習をカメラのシャッター音で邪魔してはいけないと思い、スケッチを描きました。まさか載るとは思いませんでした…。



▲トロンボーンはかなり重く、長時間持ち続けることが大変だと感じました。